

8月 園だより

長いお休みが明けて、いよいよ今日から2学期が始まります。2学期にもたくさんの行事が予定されています。子どもたちが毎日の園生活により、大きく育っていくことを楽しみにしております。さて、1学期をもって、転出されたお友達がいます。お母様から承諾を得て、私たち職員に書いてくださったお手紙をこちらに掲載いたします。

職員の皆様へ

まだ先だと思っていた退園日があっという間にやってきてしまいました。妊娠7か月の時に心臓の病気が見つかり、生後2日目で9時間の大手術に挑み、心臓は良くなりましたが、この手術が原因で脳出血を起こしてしまい、現在の様に障害が残ってしまいました。母は、「命があってこそその人生。生きているだけで可能性は無限大!! 神様が命を守ってくれた」、そう思いました。「この小さな命をどんなことがあっても守り抜く」、そう心に決めました。

入園前、障がいのあるSを受け入れてくれる園はなく、札幌市中の園に電話をかけまくり、撃沈の日々を過ごしていました。ただお友達と遊ばせてやりたい、普通の子どもと同じように楽しいことやらせてやりたい。そんな当たり前のことも叶わないのか、と。その時ばかりはSにばれないようにお風呂場で大泣きしたこと、今でも覚えています。そんな中、園長先生だけは私の話を聞いてくれ、預かりさんで遊ぶところから始まり、入園に向けて動いてくれました。不安いっぱいの中でスタートした幼稚園生活。たくさんの方の優しさ、サポートのおかげで、今日まで怪我無く楽しく過ごすことができました。

会話のできないSと心と心で会話をし、仲良くしてくれたクラスのみんな。会えば「歩くの上手になったね!!」と声をかけてくれたお母さんたち。そしていつも笑顔でサポートしてくれた先生たち。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本音を言えば卒園させてやりたかった。今回の決断が本当に正解だったか? 答えは出ませんが、少しでもSの人生が豊かになるよう、母として全力で応援し、サポートしていきたいと思います。必ず歩ける!! そう信じてまた日々のケア、リハビリ等、頑張っていきます。短い間でしたが、最高の幼稚園生活をありがとうございました。お友達と過ごした1年4か月が何よりのリハビリになったことをとても嬉しく思っています。本当にお世話になりました。 母より

Sちゃんは、雪がなく冬でも車いすの移動ができ、街ぐるみで支援体制が整った静岡県へ、引越しします。お父様もお母様もSちゃんのために、一大決心をし、お仕事も変え、知り合いも誰もいない新しい地で子育てをされます。

ミカエルは、インクルーシブ教育の体制を整えようと、努力をしています。これからも「どの子ども大切にされる保育」を職員皆で、当たり前、心を込めて行っていきます。

(園長)